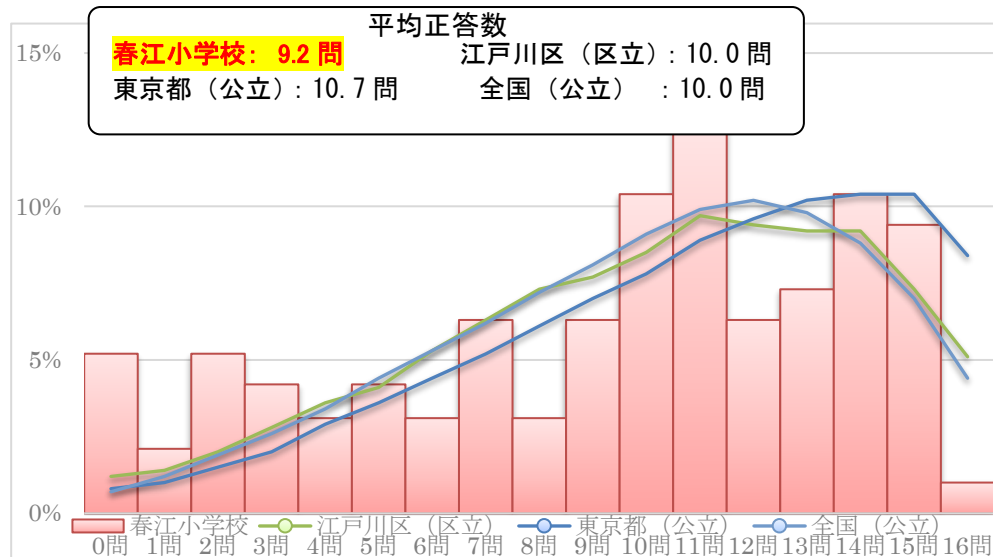


令和5年度 全国学力・学習状況調査結果と改善に向けて【算数】 春江小学校

正 答 数 分 布

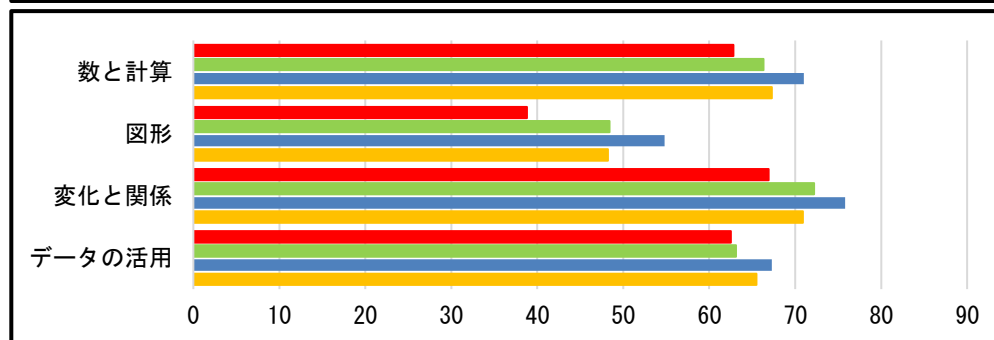
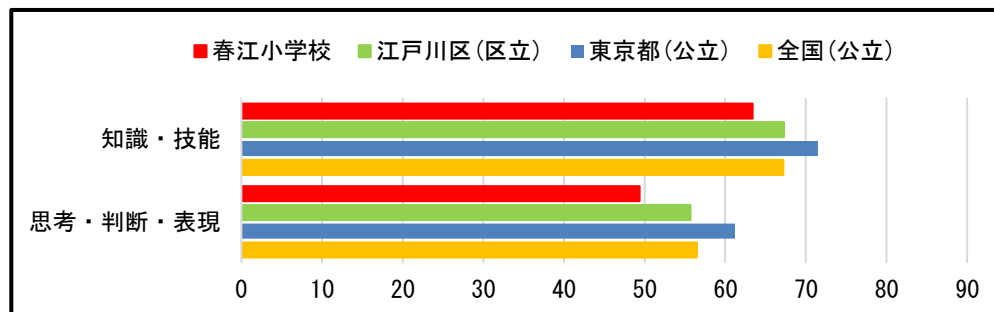


<四分位における割合(都全体の四分位による)>

算 数	上位 ←		→ 下位	
	A 層 14～16 問	B 層 11～13 問	C 層 8～10 問	D 層 0～7 問
春江小学校	20.8	26.1	19.8	33.4
江戸川区 (区立)	21.6	28.3	23.5	26.6
東京都 (公立)	29.2	28.7	20.9	21.2
全国 (公立)	20.2	29.9	24.4	25.5

四分位とは、データを値の大きさの順に並べたとき、児童数の 1/4、2/4、3/4 にあたるデータが含まれているのはどの集合かを示すものである。下の表では、四分位によって児童を A、B、C、D 層に分けた時のそれぞれの層の児童の割合を示している。なお、本データで示している四分位は、東京都 (公立) のデータを基に定めている。

「領域別」の結果



【分析結果と授業改善に向けて】

平均正答率で比較すると、都の正答率が 67%であるのに対し、本校の正答率が 57%と 10%下回る結果となった。四分位で見ると AB 層が 46.9%であるのに対し、CD 層が 53.2%と下位層の割合が多いことが分かる。CD 層の児童を BC 層に引き上げていくことが必要である。

領域ごとに見ると、都の平均正答率と比べ大きく下回っているのが【図形】の 16%、【変化と関係】の 8.9%、【数と計算】の 8.2%であった。また今年度は無回答率が高いことも傾向として見られ、学習したことの定着に課題があり、設問に取り組むことができなかったと考えられる。

そのためできる限り少人数の環境の中で、児童の実態に合わせた個に応じた指導を行うとともに、単元ごとの既習事項を適宜復習する時間を設けることが改善策の 1 つと考える。

【平均正答率の差】

春江小学校	57%
江戸川区 (区立)	62%
東京都 (公立)	67%
全国 (公立)	62.5%
都との差	10 ポイント

%